

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成22年度病害虫発生予察特殊報第3号について（送付）

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。  
なお、病害虫防除所ホームページ（[www.jpnpn.ne.jp/kagoshima](http://www.jpnpn.ne.jp/kagoshima)）にも掲載しています。

## 病害虫発生予察 特殊報第3号

平成23年 2月25日  
鹿児島県病害虫防除所

**1 病害虫名** マンゴーキジラミ *Calophya mangiferae* Burckhardt & Basset  
(異名 *Microceropsylla nigra* (Crawford))  
(ヒメキジラミ科)

**2 作物名** ハウス栽培マンゴー (品種アーウィン, 加温栽培)

### 3 発生確認および発生状況

(1) 発生確認年月日 平成23年 2月 8日

(2) 同 定 確 認 平成23年 2月14日 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
果樹研究所 井上 広光博士

(3) 発 生 状 況 指宿市 (ハウス1地点, ポット植え樹齢10年生)

ハウス栽培マンゴーで、幼虫の寄生が認められた (写真1)。本種の発生は、平成10~12年に  
与論、沖永良部、徳之島および奄美大島のマンゴーで発生が確認されていた (山口ら, 2006) が、  
県本土ではこれまで確認されていなかった。

### 4 形態及び生態の特徴

(1) 形態：成虫は黒色で、全長1.2~1.7mm, 前翅は透明, 触角と脚は淡黄色, 複眼は赤色で目立つ  
(写真2)。幼虫は黄色で、翅芽は大きく発達し, 脚はその外にはみ出ない (写真1)。

(2) 生態：マンゴーにのみ寄生する。沖縄では、成虫の発生は周年と見られ, 新梢の出現と大きな  
関係があり, ピークは9~10月である。

(3) 被害：幼虫が新葉に寄生して吸汁加害するため, 葉が黄化して落葉する。また, 多量の甘露を  
排出し, 二次的にすす病を誘発させる (写真3)。

(4) 分布：海外ではインド, フィリピンおよび台湾に分布する。日本では, 昭和61年に沖縄, 平成  
10年に奄美群島で発生が確認されている。

### 5 防除対策

未発生地に苗を導入する場合には, 十分注意する。また, 園内の観察をきめ細かく行い, 本害虫  
の早期発見に努め, 寄生部位の除去などの物理的防除を行う。

### 6 引用文献

(1) 井上 広光 (2004) 「植物防疫」58 (1) : 29-32

(2) 山口ら (2006) 九病虫研究会報 52 : 62

(3) 沖縄県農林水産部 (2002) 「マンゴーの病害虫たち」: 28

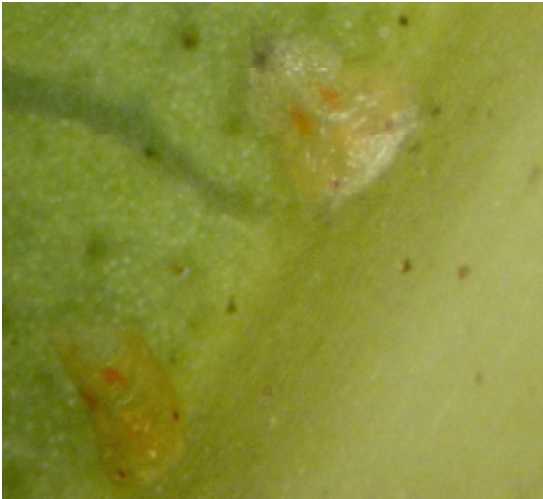


写真1 幼虫



写真2 成虫 (*Calophya mangiferae*)



写真3 被害葉

\*写真2は井上氏提供，写真3は沖縄県農林水産部「マンゴ어의病虫害たちp28」を引用